

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



を活用した学習の事例（指導案等）



概 要	
学年・教科・単元等	中学３年生・国語科・説得力のある批評文を書く
活用方法	四つの学習過程を単元計画および本時の展開に位置付けた。特に「見いだす」「まとめあげる」の過程を重視し、生徒に、単元のはじめに身に付ける力を意識させ、単元末に身に付けた力を言語化させることで次の単元に生かせるようにした。
成果等	生徒は四つの学習過程を経て思考を深め、課題を次の学習に生かそうとしていた。生徒にとっては学習の仕方を振り返る視点、教員にとっては授業のつくり方を振り返る視点として、両者が共通の指標をもつことで、よりよい授業を実現できると感じた。

第3学年〇組 国語科学習指導案

- 1 単元名 ポスターの批評文を書こう
教材名 説得力のある批評文を書く

2 単元について

(1)単元観

本単元は、中学校学習指導要領・国語【第3学年】〔思考力、判断力、表現力等〕「B 書くこと」の(1)「ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。」「オ 論理の展開などについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。」を受け設定したものである。学習指導要領には、「表現の仕方を考える際には、目的や意図、題材などに合わせて、第3学年までに学習した表現に係る様々なことを活用しながら工夫することが重要である」「どのように改善するとよいかなど、次の自分の書く活動へ生かす具体的な視点を得ることも重要である」とある。第3学年では、目的や意図をふまえて、適切な表現を選択したり表現を改善したりすることが重要と考え、目標として設定した。これらの力を身に付けさせるため、(2)「ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動」に基づき、二つの広告を比較して、批評文を書くという言語活動を設定した。

本教材では、二つのポスターを比較することによって、誰に対してどのようなことを伝えたいのかを考え、自分の意見を効果的に表現することにつなげていく。批評文では、批評を単なる好き嫌いや思いつきの感想にしないために、対象を観察、分析し、比較したうえで自分の判断の根拠を示すことが求められる。ポスターは写真やキャッチコピー、レイアウトなど批評できる要素が多く、中学生が観点を明確にして様々な角度から分析、評価するのに適した教材であると考えられる。

(2)生徒の実態 (省略)

(3)指導観

主体的・対話的で深い学びをめざした授業を実現するため、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」などを明確にして授業に参加できるように、単元で身に付ける力や授業の流れ、評価規準を初めに提示し、「なぜ学ぶのか」を生徒自身に考えさせる。これまでの書く活動を通して自分が身に付けられていないことを振り返らせ、単元を通して何を学び、単元末にはどのような自分が変わっていきたいかを自覚させたい。また、単元の途中で班員と推敲をしたり、指導者による形成的評価を行ったりすることで、目標の達成度合いを自覚させ、単元の後半の学習に生かせるようにする。

授業の終末では、単元を通して学習したことの中から自分に必要なポイントをまとめさせ、それ

をもとに他の課題に取り組みさせる。それにより、「何を学んだか」を自覚したり、学んだことを活用したりする姿勢を育んでいきたい。

ICT 活用については、批評の観点を話し合う際に **Jamboard** を使い、意見の交流を瞬時に行う。推敲の際には、批評文を撮影、アップし、同じ人の批評文を見ながら全員でよい点、改善点を話し合えるようにする。さらに、周りの目を気にして指導者からの支援を受けられない生徒のために、**Google Classroom** にモデル文や穴あき形式の文例など、ヒントとなる資料を載せることで、周りの人に質問する以外の解決方法を用意し、自分に必要な援助を自分で選びやすくする。

定期テストや実力テストでは、作文を書きあげる生徒が非常に多く、時間の不足により完成させられない生徒はいても白紙で提出する生徒は少ない。作文を書くことに対し、比較的前向きに取り組めており、与えられた条件にそった内容を記述できるようになってきている。全国学力・学習状況調査の結果によると、自分の考えが分かりやすく伝わるよう適切な根拠を述べることに課題があるようだ。そのため、これまで意識してきた「何を」書くかということから一歩進んで、「どのように」伝えるかということも意識させることが重要である。効果的な構成や表現について、第3学年までに学習した内容を復習し、批評に使える言葉やその使い方を紹介することで、自分の思いを少しでも正確に表現する態度を育成したい。また、周囲と推敲する際に意見交流の時間を確保することで、正しい文の書き方や表現の工夫に意識が向くようにしたい。

3 単元の目標について

(1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。

[知識及び技能] (2)ア

(2) 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。

[思考力、判断力、表現力等] B(1)ウ

(3) 論理の展開などについて読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。

[思考力、判断力、表現力等] B(1)オ

(4) 粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもって批評文を書こうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の評価規準について

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)	①「書くこと」において、表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) ②「書くこと」において、論理の展開などについて読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)	①粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。

5 指導計画と評価計画について (6時間扱い 本時2/5)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の見通しをもつ。 ・批評文の特徴や広告の役割を理解する。 ・批評に使える言葉の意味や用例をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何をなぜどのように学ぶのかを明確にし、生徒自身に身に付けた力を設定させる。 ・複数の文章を提示し、批評文の特徴を説明する。感想や非難とは違うことを確認する。 ・ポスターの価値を述べる際に使える言葉を紹介し、意味や使い方を調べたり、考えたりさせる。 	<p>【知識・技能】</p> <p>ポスターの情報から、広告の役割を見つけている。 (ワークシート)</p>
二	2	<ul style="list-style-type: none"> ・二つのポスターのよいところを見つける。 ・ポスターの批評の観点を掴む。 ・広告の分析をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Jamboard を使い、ポスターの特徴やよさを共有、分類させ、批評の観点を考えさせる。 ・Jamboard を使い、二つのポスターのよいところを個人で挙げさせる。 ・いくつか観点を選び、二つのポスターの特徴や価値を比較させる。 	<p>【知識・技能】</p> <p>具体的なよさや特徴をもとに、意見を分類し、批評の観点を導きだしている。 (Jamboard) (話合いの観察)</p>

	3	<ul style="list-style-type: none"> ・批評文の構成を考える。 ・批評文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項である「頭括型、双括型、尾括型」の特徴を復習したり、表現の仕方や語彙について紹介したりし、自分の文章にふさわしいものを選べるようにする。 ・Google Classroom の資料にモデル文をアップし、必要な生徒が参考にできるようにする。 ・余裕のある生徒にはより適切な表現がないか考えさせる。 	<p>【思考・判断・表現①】</p> <p>目的や意図に合わせて、文章構成や語句などを選択し、批評文を書いている。</p> <p>(ワークシート・批評文)</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの批評文を読み合い、よりよい書き方を考える。 ・ここまでの学習状況を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班で推敲する前に、自分で推敲する時間を確保する。 ・円滑に交流を図れるように、推敲する際のポイントや指摘の仕方について指導する。 ・交流を通して見つけた自分の批評文のよいところや改善できるところを具体的に記述させる。 ・現時点で目標の達成率がどれくらいなのか確認し、残りの授業で何に力を入れるべきか考えさせる。 	<p>【思考・判断・表現②】</p> <p>交流を通して自分の批評文のよいところや改善できるところを発見している。</p> <p>(ワークシート)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>自分の表現をよりよいものにするために進んで交流し、次時の学習に生かそうとしている。</p> <p>(ワークシート)</p> <p>(話し合いの観察)</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・交流や指導者のフィードバックをふまえ、自分の批評文を書き直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が添削したものを返却し、生徒が改善に生かせるようにする。改善方法を具体的に提案したり訂正部分を指摘するだけにとしたりと、生徒の学習の状況に合わせて添削の仕方を変える。 ・前時に振り返ったことをふまえ、よりよい内容になるよう批評文を書き直させる。 	<p>【思考・判断・表現②】</p> <p>他者からの助言を踏まえ、自分の文章の特徴を理解し、表現や論理の展開を改善している。</p> <p>(ワークシート)</p>
三	6	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきたことの中で重要な事項をワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・批評文を書く際のポイントや自分の間違いやすいポイントなどを簡潔にまとめさせる。 	<p>【知識・技能】</p> <p>広告の特徴から批評の観点を導きだしたり、学習した批評の観点から具体的な特徴を記述したりしている。</p> <p>(ワークシート・批評文)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに与えられた課題で広告の批評文を書く。 ・学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要事項を自分でまとめたワークシートのみ参照可とし、批評文の課題に取り組みさせる。 ・全員がこれまでの取り組みを生かして記述できるように、課題の形式は変えず、ポスターのみ新しいものに変える。 ・書き直した批評文を自己評価させる。(ルーブリック) ・指導者も同じルーブリックで評価し、評価の違いを確かめさせ、評価が分かれる項目について重点的にフィードバックし、今後の学習につなげられるようにする。 ・単元を通して身に付けた力を記述させ、取り組み方の工夫や今後の課題について説明させる。 	<p>【思考・判断・表現①】 目的や意図に合わせて文章構成や語句などを選択し、批評文を書いている。 (ワークシート・批評文)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に自分の批評文の分析をし、今後の学習に生かそうと振り返りをしている。 (ワークシート)</p>
--	---	--	--

6 本時の指導について (2/6時間)

(1)本時の目標

- ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。〔知識及び技能〕(2)ア
- ・粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもってポスターを分析しようとする。

「学びに向かう力、人間性等」

(2)本時の展開

	時配	学習活動と内容	支援と評価 (●)
導入 (見いだす)	5	学習問題 ポスターを批評する際の観点を見つけ、ポスターを観察、分析しよう。	
		<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した批評文の定義や、調べた言葉について復習する。 ・本時の目標や授業の流れを確認する。 ・ポスターの分析をするために、観点を明らかにし、特徴や価値を説明することを伝える。

説得力のある批評文を書く

学習問題

ポスターを批評する際の観点を見つけ、ポスターを観察、分析しよう。

○ポスターの観察、分析

観点

+

特徴

+

価値・評価

どこに
注目し

どんな

どんな

様子・内容で

印象・よさがあるか

(事実)

- ・対象
- ・キャッチコピー
- ・説明の文章
- ・文体
- ・文字 (大きさや書体)
- ・写真
- ・色使い
- ・配置
- ・登場人物やその表情
- ・その他、当日出てきた意見

○本時の振り返り